



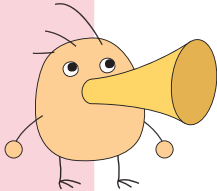
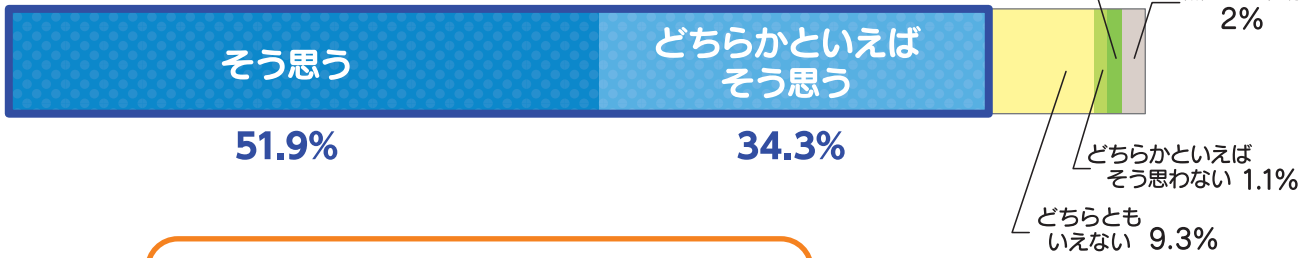
と



① 「差別はいけない」と思っているけれど…

問 差別は人間として最も恥はずべき行こうい為のひとつである。

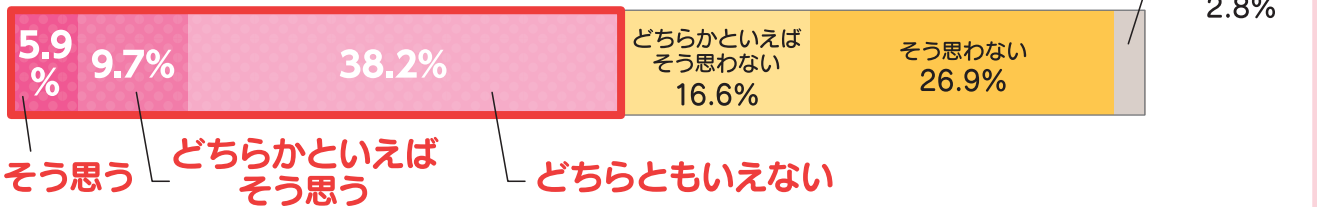
「大分市人権に関する市民意識調査(2015)」より



「差別は恥はずべき行為だ」と思っている人がたくさんいます。しかし…

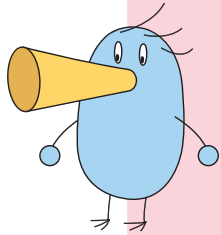
問 差別の原因には、差別される人の側に原因があることも多い。

「大分市人権に関する市民意識調査(2015)」より



無回答・不明 2.8%

「差別される人の側に原因がある」と考える人もいます。2003年には、差別を受けている人がさらに責められる事件がありました

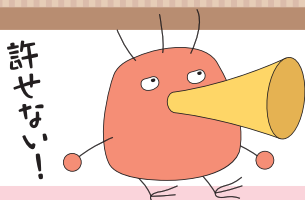


ハンセン病元患者宿泊拒否事件

2003年に熊本県でホテルがハンセン病元患者の宿泊を拒否した事件が起きました。そのホテルは旅館業法違反により営業停止処分を受け、最終的に廃業することになりました。

この事件のあと、国立療養所菊池恵楓園にハンセン病元患者を誹謗中傷する電話がかかったり、差別的な手紙やはがきが大量に送りつけられたりしました。差別をしたホテルではなく、ハンセン病元患者が責められることになったのです。

※ハンセン病は、らい菌による感染症で、非常にうつりにくく、感染しても発病するのはまれであり、現在は治療法も確立されています。しかし、ハンセン病、誤った強制隔離政策への理解が進んでいないことによって、ハンセン病患者・元患者やその家族は偏見や差別の対象にされてきました。



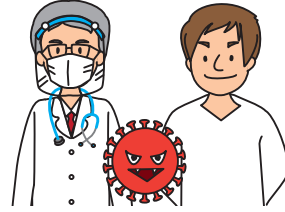
まるで差別を受けている被害者に問題があるみたい

2 被害者を責める考えは他にも…

新型コロナウイルス感染症



PCR検査で陰性
だったにもかかわらず、子どもが通
う保育園の他の保
護者から、登園さ
せないように言わ
れる



医療従事者やその
家族を感染者とみ
なし、避けたり、排
除したりする

だれでも感染する可能性があるのに…
患者を救おうとしている人なのに…

東日本大震災



原発事故のあった
地域から避難した
人の宿泊を断る



避難者があだ名を
つけられたり、避
けられたり、暴言
を受けたりする

災害は、いつ、どこで起きるか
わからないのに…

部落差別

そこに住んでい
るから差別を受
けるのでは…



セクハラ

あなたに原因があ
るんじゃないの？



どこに住んでいても、部落差別を受けないのが、
本当は大切なのに…なぜ、被害を受けている人を
責めるのでしょうか

③ 責める気持ちはどこから? ~不安と偏見~

1 どの情報が正しいのかわからない



2 解決方法が見つからない



3 まちがった情報を鵜呑みにし、偏見をもつ



4 差別(攻撃)することで、不安を解消しようとする



自分の不安の解消に
しかなりません

差別を受けている人が
責められると、こんな
ことが起こります

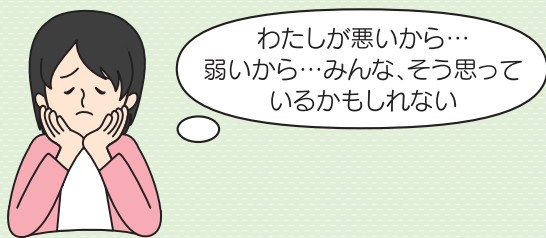
1 差別を受け、かかえきれなくなる



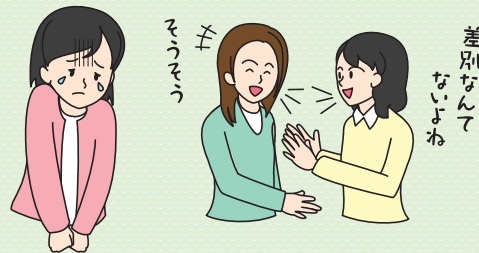
2 勇気を振り絞って、相談に行く



3 誰にも相談できなくなり、泣き寝入りする



4 まわりの人は「差別はない」と言い始める



どうにか
しないかと!

差別は見えなくなり、
エスカレートしていきます

4 差別をなくしていくために

新型コロナウイルス感染症しやうに関して

根拠こんきよのないデマによって、患者やその家族、医療従事者等いりやうを非難したり避けたりしても、ウイルスに対する不安は消えません。それどころか、そのような雰囲気ふんいきがある社会では、体調が悪くても言いづらくなり、もし、感染していた場合には、感染を広げてしまう恐れがあります。さらに、医療に携わる人が減少するようになると、医療崩壊ほうかいを招くことにつながりかねません。



ストップ!
差別

つまり、偏見へんけんや差別が、感染拡大を防ぐという根本的な問題の解決をさまたげているのですね

その通り!

部落差別をはじめあらゆる差別も、差別を受けている人を責めても解消しないのです

そもそも差別は受けている人の問題ではなく、する人の問題で、差別をする人が変わらない限りなくならないのです

2016年に施行された3つの法律は、いずれも差別を「する人」に焦点を当て、差別の解消をめざした法律です

障害者差別
解消法

ヘイトスピーチ
解消法

部落差別
解消推進法

どんなに優しくて思いやりのある人でも差別をする場合があります。それは、心の中に「偏見」がある場合です

心の中の「偏見」に気づき、向き合うことができれば、心の曇りもとれていくのではないのでしょうか

⑤ わかることは かわること

～偏見^{へんけん}に気づき向き合う～

友人がハンセン病療養所^{りょうよう}の入所者に会いに行くという話を聞いて、同行させてもらうことをお願いしました。ずっとハンセン病問題について直接「学びたい」と思っていたからです。

当日、「失礼なことをしてはいけない」と平常心を保つよう自分に言い聞かせながら訪問しました。入所者の方が「暑いですね、遠いところからよくいらっしゃいました」と冷たい麦茶を出してくれました。その麦茶を飲もうとした時、わたしの心の中で何かが起こり、わたしの動きは一瞬止まってしまったのです。差別^{いっしゆん}については勉強してきた…「療養所^{りょうよう}の人は完治している」と知ってはいましたが、まだまだ心の中に何か^{ひそ}が潜んでいたのです。でも、そのことを気づかれてはいけないと必死で平常心を取り戻そうとしました。

その後、いろんな話をしました。テレビ番組のこと、わたしの家族のこと、趣味や特技のこと、そして、昔の歌謡曲^{かようきょく}と一緒に口ずさみました。

あっという間に時間が過ぎ、療養所を後にしました。自分を取り繕^{つくろ}うことで精いっぱいだったわたしが「肝心^{かんじん}な差別^{さべつ}について何も聞くことができなかった」と友人にこぼすと、このような話をしてくれました。「差別を受けたつらい話を初対面の人に話せると思う？自分だったらできないなあ。でもきみは、たくさん^{おん}のことを学んだんじゃないかなあ。とてもいい顔をしているよ。今度また、会いに行こうよ」そう言われてみると、確かに何かが変わったのです。わたしの心を包んでいた鎧^{よろい}のようなものが取れてすがすがしい気持ちなのです。差別を受けて苦しんで生きてきた人は、特別な人ではなく、わたしと同じ人間なのです。わたしと同じように「幸せになりたい」と願いながら過ごしていたのです。何より自分という人間がどんな一面を持っているかということもよくわかった思い出深い一日となりました。

「学びたい」という気持ちは「わかる」のはじまりです。様々な立場の人との出会いや人の生き方にふれることが、自分の中の偏見に気づききっかけとなります

気づき、わかることによって、見方が変わり、生き方もかわっていくのです

「わかる」ことは「かわる」こと、そして「かえていく」ことにつながっていく…

差別をなくす人として
一步一步進んでいこう

豊かな心を育む人権・同和教育